

インクルーシブ保育のパイオニア どんこ会グループ 2024年春、東京・千葉・新潟で開園する新規3園全てが インクルーシブ（多機能型）保育園

～東京都初※「児童発達支援センター」x「認可保育園」壁のないインクルーシブ施設を東大和市で実現～

どんこ会グループ（本社：東京都渋谷区 理事長：安永愛香）は2024年も引き続き、障害の有無にかかわらず子どもが育ち合うインクルーシブ保育のさらなる推進のため、新たに3施設をオープンします。

- ✓東京都初※！「児童発達支援センター」と「認可保育園」を一つ屋根の下に併設した、真に壁のない多機能型施設を2024年4月、東大和市にオープン。
- ✓千葉県袖ヶ浦市に2年連続開園。2024年4月に袖ヶ浦駅近くに「認可保育園」と「児童発達支援事業所」、2025年4月にコカ・コーラボトラーズジャパン Park 百目木（百目木公園）内に、「認定こども園」と「児童発達支援事業所」の併設施設をそれぞれ開園。
- ✓新潟県にもインクルーシブの波！「認定こども園」と「児童発達支援事業所」を一つ屋根の下の併設した多機能型施設を2024年4月、見附市にオープン。



東京都初となるインクルーシブモデル（仮称）東大和どんこ保育園および（仮称）子ども発達支援センターつむぎ 東大和

厚生労働省から発出された省令改正を受け、全国で本格的な取り組みが始まっているインクルーシブ保育。どんこ会グループはそのパイオニアとして、2015年から8年にわたり現場実践で得た知見を生かし、障害の有無にかかわらず子どもたちが共に育ち合う環境を全国に広げていきます。

(仮称) 子ども発達支援センターつむぎ 東大和 x (仮称) 東大和どろんこ保育園

開所予定日：2024年4月1日

運営形態：児童発達支援センター x 認可保育園 保育所等訪問支援、相談支援事業も実施

定員：児童発達支援センター30名、認可保育園80名

住所：東京都東大和市立野3丁目630番地外

主な特徴：地域の児童発達支援センターの老朽化に伴い、新たな運営整備事業者の公募があり、どろんこ会グループのインクルーシブモデルの提案が採択されました。東京都では初となる※「児童発達支援センター」と「認可保育園」を併設した多機能型施設となります。同じ敷地内、一つ屋根の下で、室内にも保育園と児童発達支援センター双方を区切る壁を設けることなく、子どもたちが共に生活することができる施設となります。全ての大人が全ての子どもの支援をできることは、真の意味でのインクルージョン推進のために非常に画期的であり、日本の子育て事業計画のロールモデルともなる東京都で実現したことに大きな意味があります。

施設情報：<https://www.doronko.jp/facilities/doronko-higashiyamato/>

※2023年4月の省令改正までは、設備に関しては保育所が併設される場合であっても原則として壁や固定パーティションにより訓練室と保育室を区切ることとされてきましたが、文字通り本当に「壁のない」インクルーシブモデルの実現は初となります。

(仮称) 袖ヶ浦どろんこ保育園

開所予定日：2024年4月1日

運営形態：認可保育園 x 児童発達支援事業所

定員：90名

住所：未定

主な特徴：袖ヶ浦市では2024年4月の(仮称)袖ヶ浦どろんこ保育園の開園に続き、2025年4月には平川地区にある市民の憩いの場「コカ・コーラボトラーズジャパン Park 百目木(百目木公園)」の中に、認定こども園と児童発達支援事業所のインクルーシブモデルを開園予定です。公園内での保育園整備はどろんこ会グループにとっても初の試みです。

施設情報：<https://www.doronko.jp/facilities/doronko-sodegaura/>

(仮称) 見附どろんこ保育園

開所予定日：2024年4月1日

運営形態：認定こども園 x 児童発達支援事業所

定員：75名

住所：新潟県見附市熱田町字喜多稲場274-1他

主な特徴：老朽化した公立保育園3園の閉園に合わせ、新たな受け皿となるべく保育園建設を提案し、実現しました。きっかけは、どろんこ会グループのスタッフが親の介護で見附市に帰省する必要があるという相談でした。代表の高堀雄一郎は「理念に賛同している仲間を大切にしながら、全国の保育の質の向上に貢献していきたい」と語っています。

施設情報：<https://www.doronko.jp/facilities/doronko-mitsuke/>

どろんこ会グループは、2015年に初めて認可保育園と児童発達支援事業所の併設モデル(駒沢どろんこ保育園・つむぎ 駒沢ルーム)を東京都世田谷区に開設しました。ただ隣り合っているだけの施設をつくるのではなく、同じ敷地内、一つ屋根の下で、子どもたちが共に活動し、生活できる「真のインクルーシブ保育」を実践する施設づくりに取り組んでいます。

各園について取材をご希望のメディアの方は、広報部までお気軽にご連絡ください。

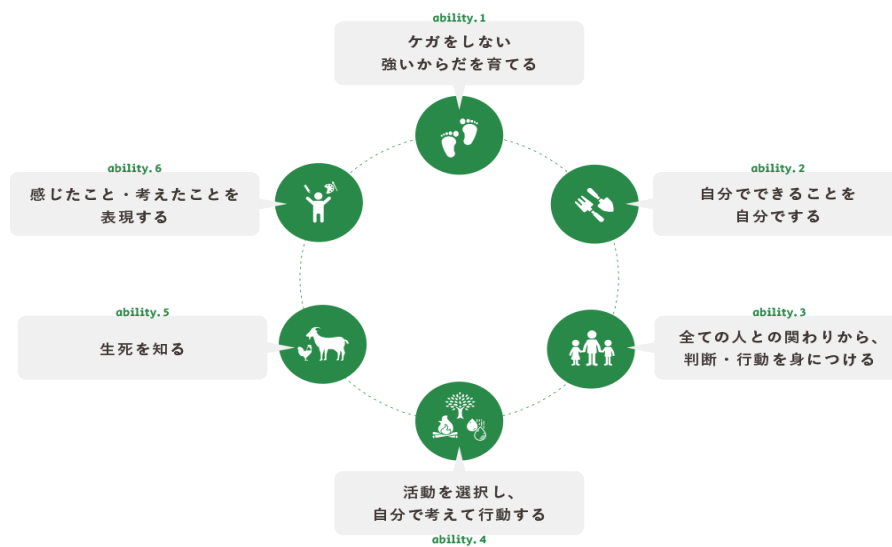
【本リリースに関するお問い合わせ先】

どろんこ会グループ (東京都渋谷区渋谷1-2-5 MFPR 渋谷ビル13F)

広報部 松本 TEL: 03-5766-8059 Email: koho@doronko.jp

(参考資料 1)

どろんこ会グループの子育てとは



どろんこ会グループの子育てでは、就学前教育の前段階から非認知能力を育むことに重きを置いています。そのために必要な6つの力を身につけることを目標としています。

1. ケガをしない強いからだを育てる

園では裸足で過ごし、長距離散歩や木登り、リズム体操、雑巾がけ、座禅を取り入れています。

2. 自分でできることを自分でする

子どもたちは畑仕事をし、自ら育てたものを調理する体験もします。給食のお米は、新潟県南魚沼市にある自社の田圃で植え付けから精米、発送まで自給自足で行っています。子どもたちも田植え、稲刈りに参加します。

3. 全ての人との関わりから、判断・行動を身につける

0歳から5歳児が共に暮らす異年齢保育、そして障害の有無では分けないインクルーシブ保育を実践しています。地域の交流を大切に、商店街ツアーや青空保育を行っています。

4. 活動を選択し、自分で考えて行動する

火、水、土と関わることで、自然の事象に自ら気づき、考える力を養います。

5. 生死を知る

ヤギやニワトリなどの生き物の世話を通じ、命の重みを知ります。また、「命あるものを食している」ことを経験するための食育、命の大切さを学ぶ性教育も実施しています。

6. 感じたこと・考えたことを表現する

生活の中で自由に表現し創る環境を用意し、子どもが感じたこと、考えたことを表現できるよう保育計画を立てています。

どろんこ会グループ（社会福祉法人どろんこ会、株式会社ゴーエースト、株式会社日本福祉総合研究所、株式会社南魚沼生産組合、株式会社 Doronko Agri）は全国約150箇所に認可保育園、認証保育所、事業所内・院内保育所、学童保育室、地域子育て支援センター、児童発達支援センター、児童発達支援事業所、放課後等デイサービス、就労継続支援B型事業所などを運営。次代を担う子どもたちの「にんげん力」を育む体験型保育・自然保育を行う。幼児期の性教育や男性保育士比率の高さなど、各種メディアでもその取り組みが紹介されている。

1998年設立。職員数約2000人。施設利用者数約9000人（2023年5月現在）

HP : <https://www.doronko.jp/> Facebook : <https://www.facebook.com/doronkokai/>

Twitter : @doronko_offical Instagram : @doronko_official/

Youtube : <https://www.youtube.com/@user-gt6ss7dl4g>